

株式会社田中化学研究所
第 68 期定時株主総会 質疑応答要旨
(2024 年 6 月 27 日)

【Q1】

対処すべき課題に挙げている要員不足への対応と、採用状況を教えてください。また、先日韓国のリチウム電池工場で事故が発生しましたが、当社は従業員の安全確保のためどのような対応をしていますか。

【A1】

まず要員不足対策についてお答えします。福井県は求人倍率が全国 1 位であり、非常に厳しい採用環境ですが、地元の大学や高校（嶺南地区含む）へ訪問し、卒業生確保のための地道なパイプ作りを行っております。また、Uターン、Iターンの応募も増えており、積極的に採用しております。

さらに、当社所在地は市街地から離れており、自動車通勤が必要です。そのため、新卒入社の高校生向けに運転免許取得費用の支援を行っています。遠方から入社される従業員のため、寮の整備も行っております。初任給についても、福井の他社に劣後しないよう毎年増額しており、定期昇給含め 5%程度の昇給を直近 2 年程続けております。

次に電池工場の事故についてお答えします。韓国で事故があったのは電池工場です。電池工場にはリチウムや電解質など、発火しやすい物質が保管されていること、エネルギーを充填すること等により事故が起りやすい環境です。一方で当社が製造しているのは電池材料であり、材料そのものが発火することはありません。また、避難通路が塞がれていて逃げ遅れたことが、この事故で犠牲者が増えた大きな要因です。これを受けて、何か事故が起きた時に従業員が確実に避難できるよう、消防法に則り避難経路にモノが置かれていないか点検を実施しました。

【Q2】

労働者不足が問題になっていますが、外国人雇用の状況とその取り組みを教えてください。

【A2】

当社は積極的に外国人を雇用しているわけではありませんが、2018 年より技能実習生として受け入れております。新型コロナウイルスの影響により実習生の受け入れが難しくなりましたが、現在も中国人実習生を 3 名受け入れ、製造ラインで活躍いただいております。今後制度も変更になりますので、改めて検討して参ります。

【Q3】

設備の稼働は人員次第と考えており、人員が不足していると技術力があっても顧客からの注文に答えられないのではないかと考えています。6月22日（土）の採用面接会のチラシを見ましたが、募集人数と面接会に来た人数、そして採用数を教えて下さい。

【A3】

直近6月22日（土）の採用面接会は製造、検査スタッフを募集し、面接者6名のうち5名に内定を出しました。また、必要人員について、3万トン規模の稼働であれば現在の人員で十分ですが、例えば4万トン規模の稼働となると現時点では人員が足りません。今後5万トン規模まで稼働率を上げて行くのに伴って必要となる人員は50名ほどと考えていますが、求人倍率の高い福井で新たに50名確保するのは容易ではなく、新卒、中途含めて年間10~20名程度ずつ増員している状況です。今後の販売状況を見通しながら、適宜適切に人員確保を行って参ります。

【Q4】

昨今システム障害や情報漏洩等が問題となっていますが、情報セキュリティに関する取り組みを教えてください。また、スマートフォン1台あれば情報を持ち出してしまう時代です。従業員のスマートフォン使用に関する規制などがあるのか教えてください。

【A4】

情報セキュリティ上で最も危惧しているのは、当社サーバーにある機密情報を外部に持ち出すことです。その対策として、システム部門が全ての端末のアクセス状況（USBの接続含む）をモニタリングしており、不正アクセスがあるとアラートが出る仕組みを整えております。さらに、サイバー攻撃に備えて疑似攻撃メールを配信する情報セキュリティ訓練を年2回行っております。この訓練によりトラップにかかった割合等を従業員にフィードバックし、サイバー攻撃の危険性を啓蒙しております。

また、会社支給のスマートフォンでは撮影しないルールとなっており、私用のスマートフォンに関しても、製造現場は、持ち込めないルールとなっております。

【Q5】

昔に比べて株主総会の参加者が減っていますが、何か思うところはありますか。

【A5】

直近数年は参加者が増加していると思いますが、過去満席になったことはありません。開催日や時間も原因の一つかもしれません。貴重なご意見として承ります。

【Q6】

第2号議案に取締役（監査等委員である取締役を除く）2名の交代が付議されていますが、その背景と今後の体制についてのコメントを聞かせてください。

【A6】

第3号議案も含めて今回大幅に取締役の交代を付議していますが、交代の一番の要因は在任期間でございます。在任期間が延びることでメリットもありますが、どこかで刷新する必要があると考えています。一度に交代することはできませんが、在任期間に照らして交代する体制をとりたいと考えております。

【Q7】

AIや産業用ロボットを活用しての省人化は検討していますか。また、海外展開の状況や新たなビジネスパートナーについて考えがあれば教えてください。

【A7】

AIについて、社内でどのような用途で活用しようという明確なものがあるわけではなく、模索している状況です。また、製造工程に関わる部門でタブレットを活用し情報共有を容易にしたり、帳票の出力を省いたり等の取り組みはしていますが、産業用ロボットの導入までは検討しておりません。

当社において一番人員が必要なのは製品のパッキング工程であり、ここを省人化できないか検討を進めている状況です。また、マテリアルインフォマティクスという技術を活用した開発も行っております。様々なデータをコンピューターに解析させることで、求める性能を満たす条件を予測でき、製品開発の効率を高めることができます。

海外展開については、現在ノースポルト社への技術支援や製品開発を行っていますが、他社と組んで海外に工場を建設するなどは考えていません。以前、親会社である住友化学と米国での工場建設を検討したことはありますが、人件費や建築コストを考えると採算が合わず断念した経緯があります。但し海外情勢も日々変化していきますので、海外展開できる機会がないか引き続き注視して参ります。

以上